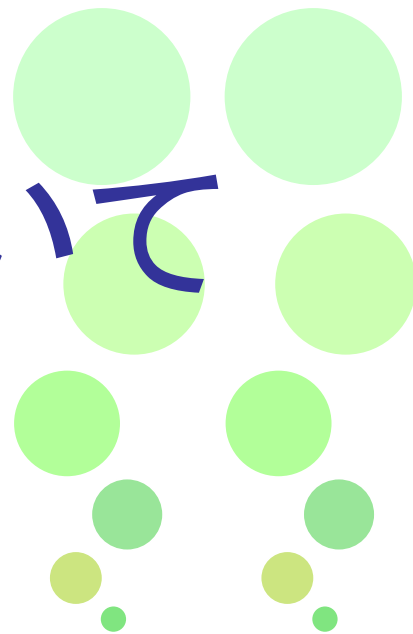

2019年度 第1回 研修会議

今年度の研究の概要について

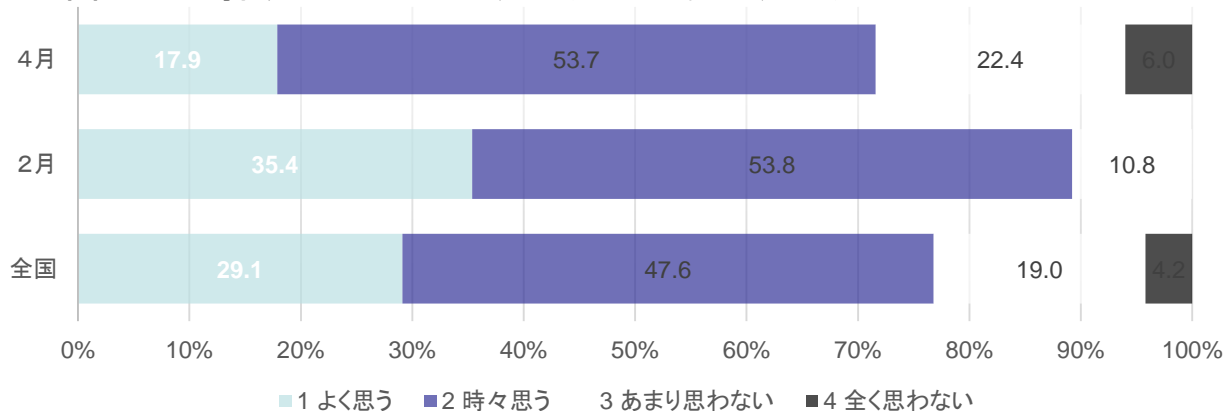


研究部

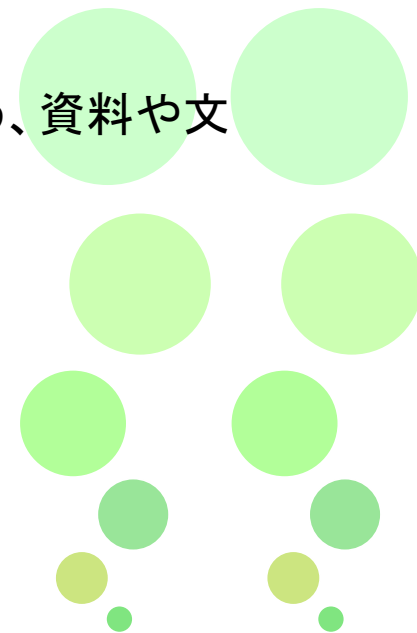
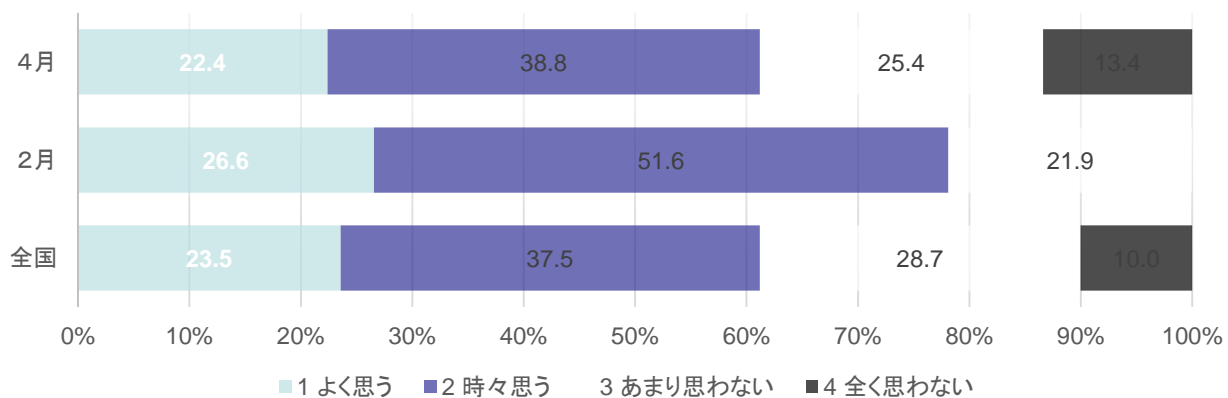
昨年度のまとめ
および
児童の実態について



(1) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



(2) 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

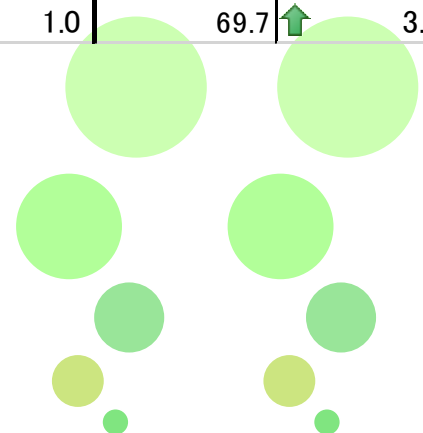


3年生 CRT国語

領域		平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	70.2	
	全国平均	73.2	→ -3.0
話す・聞く	柏小学校	82.3	
	全国平均	77.0	↑ 5.3
書く	柏小学校	62.4	
	全国平均	54.2	↑ 8.2
読む	柏小学校	62.4	
	全国平均	57.0	↑ 5.4
言語についての知識・理解・技能	柏小学校	77.2	
	全国平均	68.6	↑ 8.6

5年生 CRT国語

		5年生(2018年)		3年生(2016年)	
領域		平均正答率	差	平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	71.5		70.1	
	全国平均	71.4	→ 0.1	72.4	→ -2.3
話す・聞く	柏小学校	84.1		81.0	
	全国平均	80.7	↑ 3.4	78.3	→ 2.7
書く	柏小学校	63.6		64.7	
	全国平均	57.3	↑ 6.3	59.4	↑ 5.3
読む	柏小学校	61.5		58.1	
	全国平均	56.4	↑ 5.1	55.9	→ 2.2
言語についての知識・理解・技能	柏小学校	68.8		72.8	
	全国平均	67.8	→ 1.0	69.7	↑ 3.1



国語

領域		平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	70.2	
	全国平均	73.2	-3.0

社会

領域		平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	71.3	
	全国平均	76.8	-5.5

算数

領域		平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	70.6	
	全国平均	72.9	-2.3

理科

領域		平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	70.3	
	全国平均	81.7	-11.4

国語

領域		5年生(2018年)		3年生(2016年)	
		平均正答率	差	平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	71.5		70.1	
	全国平均	71.4	0.1	72.4	-2.3

社会


領域		5年生(2018年)		3年生(2016年)	
		平均正答率	差	平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	65.5		65.6	
	全国平均	73.3	-7.8	76.0	-10.4

算数

領域		5年生(2018年)		3年生(2016年)	
		平均正答率	差	平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	64.4		69.7	
	全国平均	70.1	-5.7	72.5	-2.8

理科

領域		5年生(2018年)		3年生(2016年)	
		平均正答率	差	平均正答率	差
関心・意欲・態度	柏小学校	68.6		75.8	
	全国平均	76.1	-7.5	81.6	-5.8

- 国語の学力はある程度定着しており、昨年度までの研究の成果が見られる
 - 「主体的・対話的で深い学び」について、6年生は児童も実感している
 - 学習に対する「関心・意欲・態度」は低い
- 

研究主題

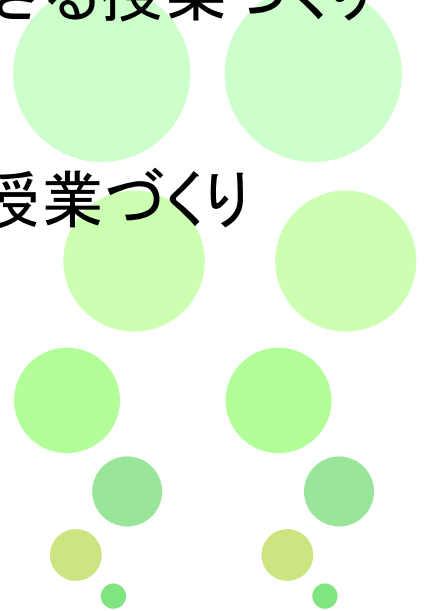
豊かに学び，認め合い，共に生きる力の育成

副主題

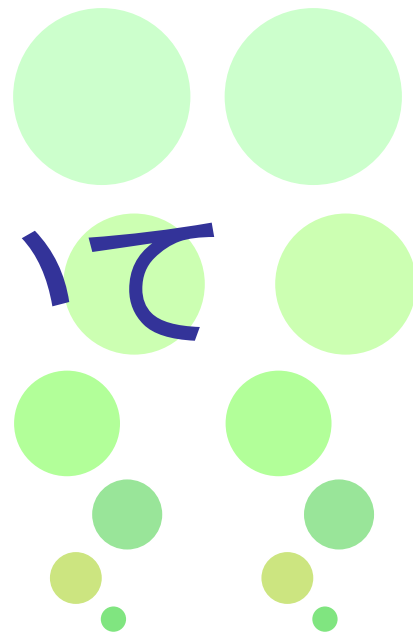
“言葉の力”をつかい，「わかる」「できる」を実感できる授業づくり



「やりたい」「わかった」「できた」を実現できる授業づくり



研究の全体構造図 および 研究の視点について



校訓 ◇強 く ◇正しく ◇明るく ◇清 く

今年度の重点課題

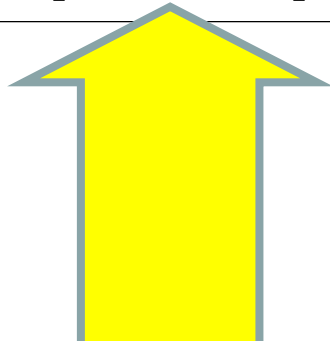
未来へと確実に進歩するわたしたち柏っ子
～シチズンシップ教育（市民教育）の活用～

目指す子どもの姿

主体的に学習に取り組み，共に認め合いながら，学びを高めることができるこども

研究主題

豊かに学び，認め合い，共に生きる力の育成
～ “ 「やりたい」 「わかった」 「できた」 を実現できる授業づくり～



みんながわかる みんなでわかる

特別支援教育の3つの視点・授業のユニバーサルデザイン化

・焦点化・視覚化・共有化

支えとなる学級経営

柏スタンダードの徹底

基礎的生活習慣
の定着

「かかわろう」
とする態度

学習規律
の確立

望ましい「聞き方」

だれもが安心して通える学校・
過ごせる学級

児童一人一人を考慮した学びの
環境づくり

心を開放できる学級

研究主題

豊かに学び，認め合い，共に生きる力の育成

～「やりたい」「わかった」「できた」を実現できる授業づくり～

□仮説1

児童一人一人が見通しをもって取り組み，達成感を味わえるような単元を意図的に構成していくことで，「やりたい」意欲が向上するだろう。

主体的な学びの姿

- ①自らの学びを見通し，自らの探究の姿を振り返る活動
- ②見方・考え方を働かせた学びとなるような問題・課題の設定

□仮説2

どの子も「わかる」「できる」を実感できるように，対話や説明の場を意図的に設定し，言語活動を充実させることで学びを深めることができるだろう。

対話的な学びの姿

- ③自己の考えを深め，広げるために子ども同士が協働する活動
- ④思考力・判断力や，発信力を育てる単元を通じた言語活動の充実

深い学び
へと
向かう姿

資質・能力の獲得

児童一人一人が見通しをもって取り
組み，達成感を味わえるような単元
を意図的に構成していくことで，
「やりたい」意欲が向上するだろ
う。

視点①

自らの学びを見通し，自
らの**探究の姿を振り返る**
活動

視点②

見方・考え方を働かせた
学びとなるような**問題・**
課題の設定

学習の振り返り

単元(一単位時間)
で何ができるように
なったのかを実感

できた！
わかった！

見方・考え方を働か せる問題・課題

どのように学んだか
【探求の姿】

何ができるよう
になる単元(一
単位時間)な
のかを理解



やってみよう！
これならできそう

単元の学習計画

どんな学習をするのか、見通しをもてるように

987

のらねこと飼いねこが出会ってからの物語を想像して書こう ↓ 交流しよう

6

飼いねことリョウを見送るのらねこの様子や気持ちを読み取ろう

5

のらねこの「かわいがる」についてどう考えているかを読み取ろう

34

のらねこの性格せいかくを読み取ろう

2

物語のつくりを考えよう
登場人物は…
場面は…

1

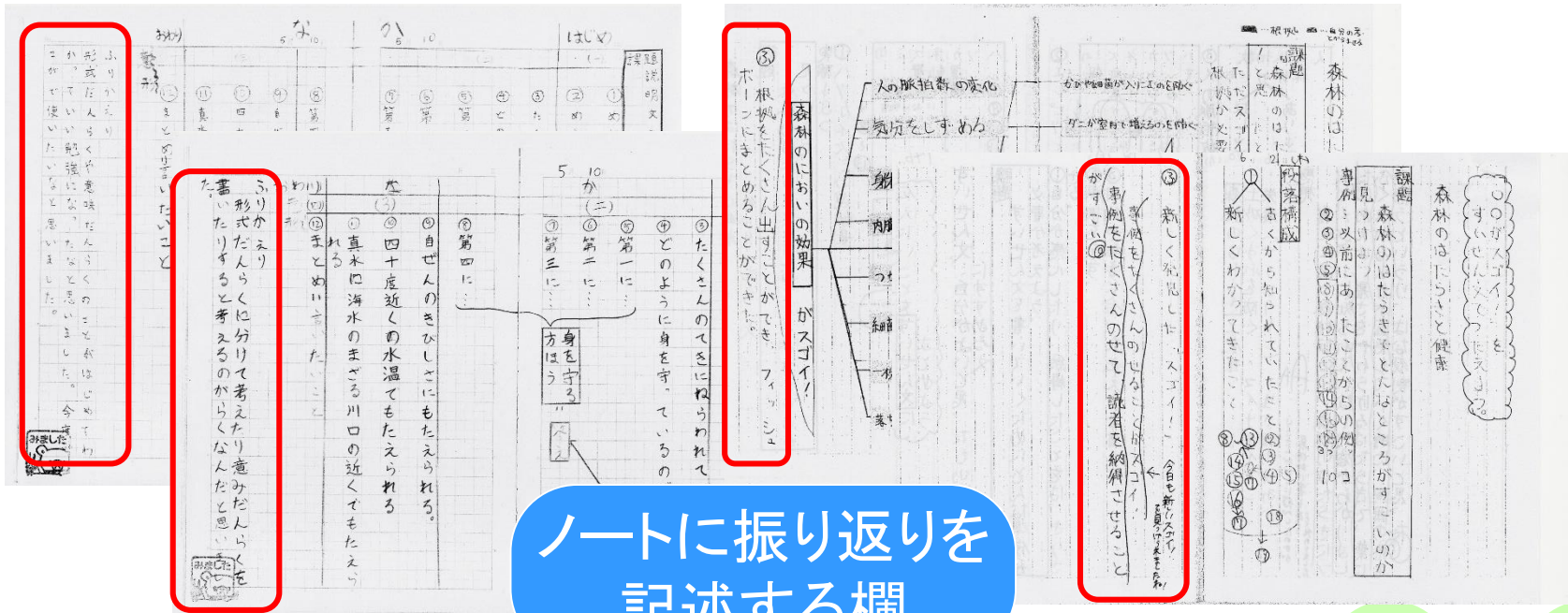
全文通読 ↓ 一次感想、感想交流

学習計画



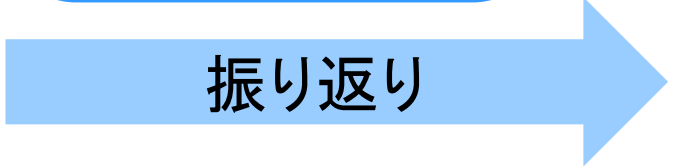
のらねこ 三木 卓 文

のらねこの性格を考えて、飼いねこの物語かを想像そうそうして書こう！



ノートに振り返りを
記述する欄

内言(頭の中)



外言

- ・記憶に残りやすい
- ・学びの手ごたえ

キーワード

3

各教科等の特質に応じた見方・考え方

「深い学び」を促進し、生活の中でも重要な働きをするもの

教科等	見方・考え方
国語 「言葉による 見方・考え方」	【小・中学校】 言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童（生徒）が学習の中で、対象と 言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり 問い直したりして、言葉への自覚を高めること (根拠：小〔中〕学校学習指導要領解説 国語編)

図3 各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ (中学校、抜粋)

言葉による
見方・考え方

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、
言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直
して意味付けること。

読み解きポイント

1. 「資質・能力」を育むため、
各教科を学ぶ本質的な意
義が明らかにされ、「見方・
考え方」はその中核を成す
2. 「見方・考え方」は、教科
の特質に応じて異なるた
め、すべての子どもが多様
な教科を学ぶ意義がある

既習の
内容

生活経験

子供が
「見方・考え方」を
働かせる

問題解決の活動

教師による
「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業改善

資質・能力

知識
及び
技能

思考力
判断力
表現力 等

学びに
向かう力・
人間性 等

どの子ども「わかる」「できる」を実感できるように、対話や説明の場を意図的に設定し、言語活動を充実させることで学びを深めることができるだろう。

視点③

自己の考えを深め、広げるために子ども同士が協働する活動

視点④

思考力・判断力や、発信力を育てる単位を通じた言語活動の充実

みんながわかる みんなでわかる

説明してみたら
自分の考えが
はっきりしたよ！



互いにプラスになる活動

一人で考えても
よくわからない
けど…



内言



外言

書く



話す

・脱わかったつもり



実感から実現へ

単元の目標・指導事項



ぼくはこう
思います。なぜ
なら……。



自分の考え
をノートに書
いておこう

読み取ってわ
かったことを
使ってまとめ
るよ！

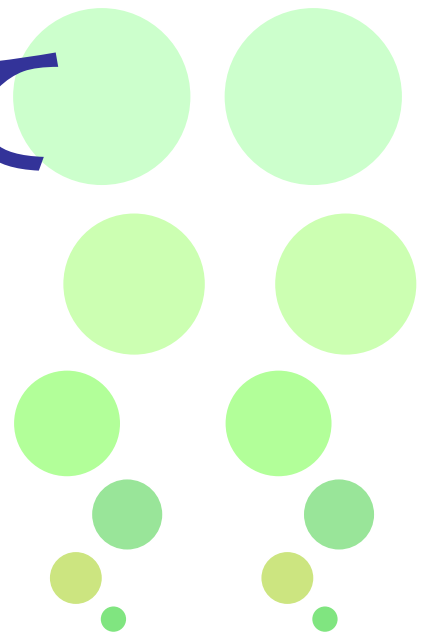


読み取ったこ
とを交流しよ
う



- ・単元のあらゆる場面で設定
- ・多様な言語活動の設定

指導案について



国語科学習指導案

日 時 5月10日(木) 2校時
 児 童 3年 2組 33名
 授業者 森谷 栄介

単元名

「大事なことをまとめよう」

(読6時間 書3時間)

教材文

「めだか」

1. 単元の目標 **読む** 段落の要点に気を付けて読み、わかったことや大事なことをまとめる。
 指導事項：C(1)イ

2. 単元について

本単元は、問題を受けて、めだかが敵から身を守る方法や、環境に適応して生きる体のことを整理しながら読むことが重点指導事項となる。そのため、「内容をまとめた文」と「詳しい説明の文」の関係を丁寧におさえない。そして、書こうとする中心を明確にし、理由や事例を挙げて「めだか図かん」を書くことにつなげたい。

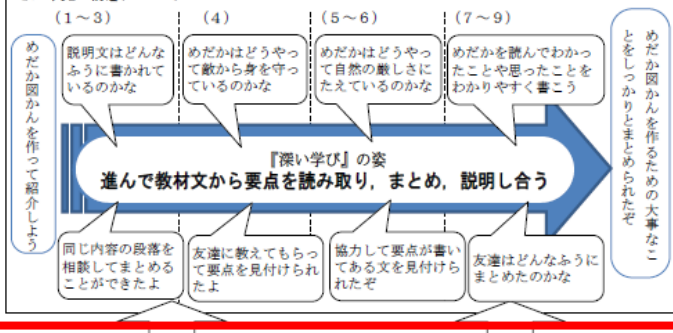
おさえない学習用語
 形式段落 意味段落 はじめ・中・終わり 要点

3. 児童の実態

ノートに丁寧にまとめようとする意識が高く、板書とノートの連携を図りながら指導を進めている。発言に関しては偏りが大きく、声も小さい児童が多いが、進んでペアで相談したり、グループで聞き合ったりする姿も見られる。全体での発言に対する話の聞き方に力を入れて指導しているところである。

本単元では、ペアで段落の構成をつかんだり、中心文を見付けたりする活動によって、目標に迫りたいと考えている。

4. 単元の構想について



5. 仮説1の検証

「めだか図かん」を書くために、段落ごとの要点をおさえ、めだかの特長について読み取ることの必要感を児童にもたせたい。段落ごとの「要点をつかむ」ことに焦点化して読み取りを行い、児童が学習への見直しをもてるようにしたい。さらに、振り返りを書くことで、『何を学んだのか』を一人一人がつかめるようにしたいと考える。

6. 仮説2の検証

段落の要点をまとめる活動をペア、あるいはグループで設定することで、「要点のまとめ方」を共有化し、どの児童も『できる』を実感することができると考える。また、要点と考えた根拠を説明したり、文章の構成を考えたと根拠を説明したりすることで、音読活動の充実が図られ、学習の理解も深まっていくと考える。

7. 本時の授業 (4/9)

- (1) 本時の目標 **読**文章の組み立てを考えながら「はじめ・なか・おわり」に分ける。
- (2) 本時の評価 **読**文章の組み立てを考えながら「はじめ・なか・おわり」に分けている。
- (3) 本時の展開

●教師の働きかけ ○児童の活動	形態	UDの視点・留意点	評価
●前時の学習を想起する。 ○音読の練習をする。	全体	・振り返りをもとに学びの姿を想起する。 ・相手意識を明確にして音読をする。	
●学習課題を提示する。 説明文を「はじめ・なか・おわり」の3つの部屋に分けよう。			
○形式段落に番号を振り、確認する。	個 ペア	読 教材文を写し、確認する。	
○形式段落ごとに、どんなことが書かれているのか大きくとらえる。	ペア		
○同じ内容の形式段落でまとめ、意味段落に分ける。	ペア	読 どの段落が同じ内容になるのか、考えを共有し合う。	
●分けた意味段落をもとに、文章の構成を確認し、まとめさせる。	全体	・はじめ・なか・おわりの分かれるところを意識させる。 ・3部構成が説明文の基本であることをおさえる。	
○文章の構成をまとめる。	個	文章を3部構成に分けることができている(読)	
○学習のまとめをする。			
●説明文を「はじめ・なか・おわり」の3つの部屋に分けると、文章のつくりがわかりやすい。			
○本時の学習を振り返り、ノートにまとめ、交流する。		・わかったことや感じたことなど、できるだけ具体的な言葉で書かせる。	
●次時の学習を知らせ、見通しをもたせる。			

(4) 板書計画

おわり (四)	なか (三)	はじめ (二)	はじめ (一)
⑬ まとめ	⑪⑩⑨ 自然のきびしさにもたえられ 四十度近くでもたえられる 真水に海水のまざる川口の近く でもたえられる	⑧⑦⑥⑤ 第四の守り方 第三の守り方 第二の守り方 第一の守り方 のよう(前回の文)	②① めだかの歌 めだかは小さな魚

めだか 杉浦 宏

●説明文を「はじめ・なか・おわり」の3つの部屋に分けよう。

4. 単元の構想について

(1~3)

主体的な学びの姿

(7~9)

めだか図かんを作って紹介しよう

説明文はどんなふう
に書かれているのかな

めだかはどうやって敵から身を守っているのかな

めだかはどうやって自然の厳しさにたえているのかな

めだかを読んでわかったことや思ったことをわかりやすく書こう

『深い学び』の姿

進んで教材文から要点を読み取り、まとめ、説明し合う

同じ内容の段落を相談してまとめることができたよ

友達に教えてもらって要点を見付けられたよ

協力して要点が書いてある文を見付けられたぞ

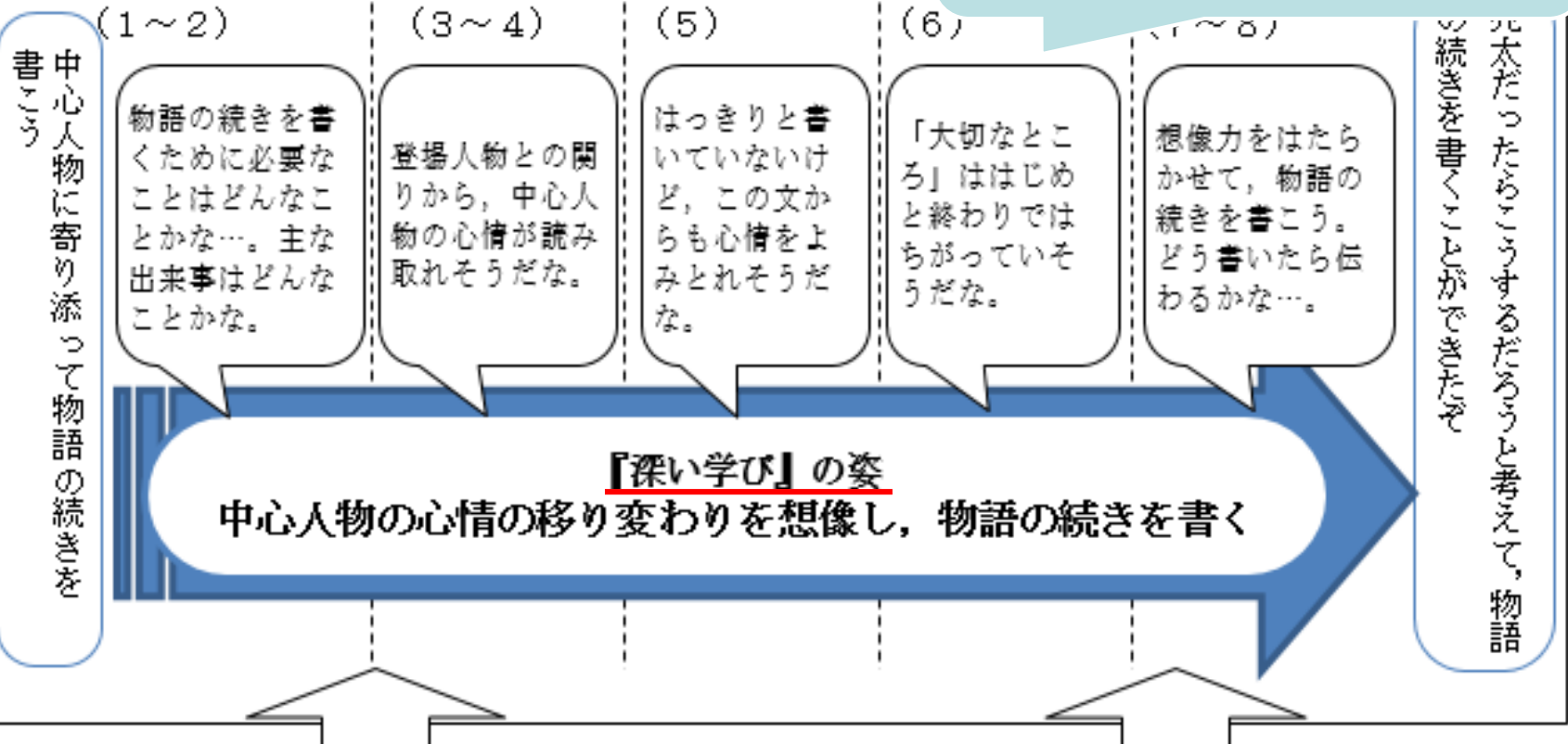
友達はどんなふう
にまとめたのかな

めだか図かんを作るための大事なことをしっかりとまとめられたぞ

対話的な学びの姿

主な学習活動を子どもの言葉で
→主体的・対話的

4. 単元の構想について



国語科学習指導案

日 時 6月25日(月) 2校時
 児 童 6年 2組 33名
 授業者 竹ヶ原 礼子

単元名

「説明の仕方に着目して読みましょう」
 (国5時間 書2時間)

教材文

「森林のはたらきと健康」

1. 単元の目標 **読** 筆者の説明の仕方に着目して読み、感心したことや納得したことを推薦文にまとめる。
指 指導事項：C(1)ウ

2. 単元について

本単元は、推薦文を書くという目的に応じて文章の内容を的確におさえ、感心したことや、納得したことなど、自分の考えを明確にしながら読むことを目的とした単元である。強くうたえるために必要な自分の心が動いた根拠を示すために資料提示や文章構成の工夫、筆者の説明の仕方などに着目させていきたい。そして、推薦の良さに気づき、実生活に生かすきっかけとなげていきたい。

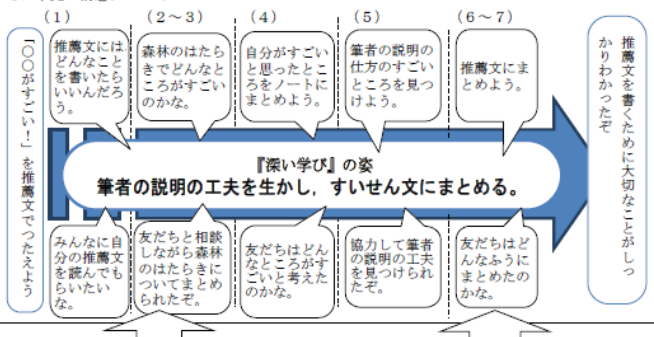
おさえたい学習用語

根拠 事例 すいせん文

3. 児童の実態

学習意欲が高く、読書好きな児童が多い。説明的文章においては要点や筆者の伝えたいことを読み取ることができる反面、指示語が指し示す内容や段落相互の関係の理解が難しい児童が多い。発言に関しては偏りが大きい。進んでペアで相談したり、グループで聞き合ったりする姿も見られる。全体での話し合いを通して自分の考えを深めることができるよう力を入れて指導しているところである。
 本単元では、ペアやグループで相談しながら根拠をつかんだり、筆者の説明の仕方を考えたりする活動によって、目標に迫りたいと考える。

4. 単元の構想について



5. 仮説1の検証

推薦文を書くために、自分は文章のどこに興味をもち、感心したのか根拠を示すことや、筆者の説明の工夫を見つけることの必要感を児童にもたせたい。自分がどんなことに感心したり、納得したりしたのかカテゴリー化させることで推薦のポイントを重点化し、児童が学習への見通しをもてるようにしたい。さらに、振り返りを書くことで、『何を学び、考えたのか』を一人一人がつかめるようにしたいと考える。

6. 仮説2の検証

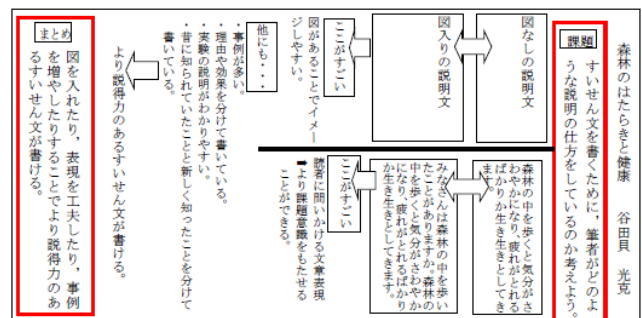
自分が感心をもったことと根拠や、筆者が工夫していることについて見つけた説明したりする活動をグループで設定することで、根拠の示し方や紹介の仕方などを共有化し、どの児童も『できる』を実感することができる。また、文章の内容だけでなく、図や表の使い方・筆者の説明の工夫にも目を向けさせる場を設定することで言語活動の充実が図られ、学習の理解も深まっていくと考える。

7. 本時の授業 (5/7)

- (1) 本時の目標 **読** 筆者の説明の仕方の優れた点を見つける。
 (2) 本時の評価 **書** 筆者の説明の仕方の優れた点を見つける。
 (3) 本時の展開

●教師の働きかけ ○児童の活動	形態	UDの視点・留意点	評価
●前時の学習を想起する。 ●学習課題を提示する。	全体	・振り返りをもとに学びの姿を想起する。	
すいせん文 を書くために、筆者がどのような説明の仕方をしているのか考えよう。			
●例を2つ提示し、どのような筆者の意図があったか全体で考えさせる。 ①図入りの文章 ②問いかける文末表現	個 全体	●筆者の説明の仕方を2つの例にしぼり、考えさせる。	
○例に挙げた2つと同じような筆者の工夫がない教科書の中から見つける。	グループ 全体	●グループで相談しながら探し、共有しよう。 ●筆者の説明の仕方の優れた点を見つけている。(説)	
●前時までに自分が作成した思考ツールを見直しながら、他にも説明の工夫がないか考えさせる。 ●事例が多い。 ・理由や効果を分けて書いている。 ・実験の仕方をわかりやすく書いている。 ・昔から知られていたこと・新しく知ったことを分けて書いている。	グループ	●前時までに作成した思考ツールを見直ししながら、他にも説明の工夫がないか考えさせる。 ●グループで相談しながら探し、共有しよう。 ●筆者の説明の仕方の優れた点を見つけている。(説)	
○全体で交流する。	全体	●もし、これがなかったら、これではない書き方だったらという視点から筆者の意図を読み取らせていく。	
●説明の仕方や表現の工夫があることでどのようなよさがあるか交流する。	全体		
○学習のまとめをする。	全体		
図 を入れたり、表現を工夫したり、事例を増やしたりすることでより説得力のあるすいせん文が書ける。			
○本時の学習を振り返り、ノートにまとめ、交流する。 ●次時の学習を知らせ、見通しをもたせる。	個	・わかったことや感じたことなど、できるだけ具体的な言葉で書かせる。	

(4) 板書計画





- ・グループでの対話的な活動を取り入れることで、本時の「わかる」を実感させるための工夫

- ・例を2つ提示し、全体で筆者の工夫について考えを深めることで、活動の見通しをもたせる工夫

写真

写真

- ・短い時間で集中して考えの交流をする子どもたち

- ・グループでの活動を見て、個に応じた指導を行い、「できる」を実感させる

写真

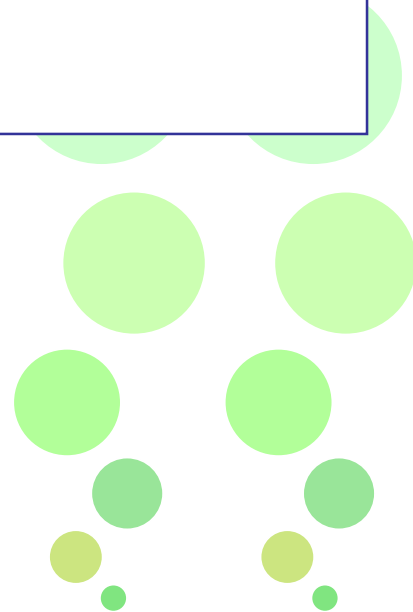
写真

写真



写真

写真



みんなでよりよいもの
していきましょう！！

